

## ロジックモデルの目指すところ

藤井 京香（看護師・保健師を目指す大学院生）

私は乃木坂スクールの埴岡先生のロジックモデルの授業も受けさせていただいていますが、今回の講義を受けてロジックモデルの意義というものを改めて理解し直したと感じています。

ロジックモデルは論理的に計画を構成することで、目的との整合性があり、効果のある施策の実施と、その評価を行う際に結果の原因を特定しやすいという利点があるため、計画立案の際に有用であるという理解でありましたが、今回の話を聞いて、ロジックモデルは患者の声をとり入れようというところが出発点になっていること、患者がどうなることが望ましいかに着目して整合性のあるアウトプットを組み立てていくから、効果が出る施策を作っていくことができるのだと認識を改めました。

より効果のある施策にするのは、患者や計画の対象者がよりよい状態になるためであるという大きな目的があり、そのための計画にしなければならないのだということ、その目的達成のためにロジックモデルを用いて目的とそのために必要なことを考えて実施しなければならないということを痛感しました。計画を立てる際に、あらゆる機関と連携して意見を出し合い、まとめていくことが求められますが、施策が実施できるために連携するのではなく、あくまで患者や対象者主体でその人たちの QOL 向上のための手段として関連機関で連携し、施策を考えることを忘れないようにしたいと考えました。

お話を聞いていると、白血病の骨髄移植の際に感じた疑問や問題点をそのままにせず、それに取り組まれたことはなかなかできないことだと感じています。しかし、問題や疑問をそのままにせず、実際に行動に移すことで、人と人がつながり、大きく国の政策が動くことにもつながって、自分から行動することで同じような考えや行動しようという人とつながることができ、人がつながることで、最初は一人であっても大きな流れを動かすことができるのだと学びました。

特に、批判ではなく自分ならどうするかという言葉はとても印象に残り、私は、理想はどんどん出てきても、実際実現できるかわからない、本当に理想的な考えなのかわからないなど色々言い訳をつけてしまって行動に移せないことが多いので、今の考え方のままではどれだけ考えても意味がないのだと感じさせられました。最終的に結果として出なかったとしても、実現可能性が乏しかったとしても、どうして実現できないかを掘り下げ、行動を起こしていくことで、新たな発見やよりよい方向への転換ができるのだと考えます。

問題に対して少しでもいいから行動に移すこと、その際には当事者の声を聴き、ロジックモデルなどのツールを使いながら意味のあるものにしていくことを今後の活動や業務に活かしていきたいと思います。